

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年4月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694300106
法人名	社会福祉法人椎原寿恵会
事業所名	グループホーム椎原館
所在地	鹿児島県南九州市川辺町中山田1892番地 (電話) 0993-58-9391
自己評価作成日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月31日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・静かな落ち着いた環境、家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活を送っていただけるように支援している。  
 ・出来るだけ家庭に近い雰囲気、環境づくりに努め、花を飾ったり季節感を感じられるしつらえにしている。  
 ・ご本人のこれまでの生活歴を把握し、持っていらっしゃる能力を生かせるように関わっている。  
 ・敷地内にある畑でつくった野菜等を、日々の食卓にあげて食べていただいている。可能な方は収穫を楽しんでいただき、自分で収穫したものを食してもらっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道225号線を鹿児島市から枕崎方面へ南下する途中の勝目地区にあり、近くにはこども園、郵便局、ガソリンスタンド、商店等が散在している緑豊かでのどかな地域に建てられている。利用者は全員女性で、平均介護度は要介護2、利用者の半数以上はトイレに自分で行くことができ、食事介助が必要な利用者もいない。職員は身体拘束・虐待防止、健康・食事、美化・園芸、備品・管理、接遇・ケア、レクリエーション・外出の6つの委員会組織に所属し、日々のケアに取り組んでいる。

利用者の人格と意志を尊重し、温かい家庭的な雰囲気や地域の中で過ごせることを理念として掲げ、職員は理念を毎朝唱和することで意識付けを図っている。また、ホームは地域の中にあって、利用者と職員がひとつの家族として一緒に生活していくことを目指しており、町内会に加入し、地域の清掃活動には職員が参加し、総会ではホームについて説明したりパンフレットを配布するなど、地域との協力関係の構築に努めている。

運営推進会議は家族・民生委員・公民館長・市職員・交番の巡査・隣接のこども園長・隣人等が参加して2か月毎に開催しているが、コロナウイルスの蔓延状況によっては書面での対応に変更している。会議では身体拘束廃止についての勉強会等を実施することもある。出席者からは事前に意見等をいただいて議事録にも掲載し、また、議事録は出席者や全家族に送付し、ホームの運営や現状・課題等について情報を共有してサービスの向上や改善に繋げている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	・理念を作成。朝のミーティングで唱和をして、全職員で共有している。仕事の始めに唱和することで、意識して仕事を行えるように取り組んでいる。	温かい家庭的な雰囲気や地域との繋がりを大切にしたい理念を玄関とホールに掲示し、毎朝のミーティングで唱和して日々の支援に反映させている。ホームは地域の中にあつて、利用者と職員がひとつの家族として一緒に生活していくことを目指しており、管理者は年2回の個別面談等を通して、理念に沿ったケアが実践できているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・新型コロナウイルス蔓延後、地域との交流は減っている。自治会の会合への参加や近隣のこども園から諸事依頼がある時に協力をしている。	町内会に加入し、総会ではパンフレットを配布したりホームについて伝え、地域の清掃活動には職員が参加するなど、コロナ禍においても可能な限り地域との交流に努めている。散歩時には隣接することも園の子供たちの姿を見て元気をもらい、隣人からは野菜等の差し入れをいただいております、少しずつ交流を取り戻しつつある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	・地域の一員として、認知症の方への理解や支援の方法をお伝え出来ていない。認知症カフェ等考えられるが、人員不足の為、実施が出来ないのが現状。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・新型コロナウイルスの蔓延状況によっては書面開催となる時もある。いただいたご意見は取り入れて、運営に活かせるように努めている。	会議は家族・民生委員・公民館長・市職員・交番の巡査・隣接のこども園長・隣人等が参加し、近くの公民館で2か月毎に開催しているが、コロナ禍で開催できない時には書面での対応に変更している。行事についての説明や写真を見てもらったり身体拘束廃止についての勉強会を行うなど、ケアや運営に関する意見交換等を通して、サービスの向上や改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議や各報告等で、事業所の取り組みを伝えている。良い協力関係を築けるように、報告・連絡・相談を怠らないように努めている。	市の担当者とは運営推進会議をはじめ、日頃から電話・メール・窓口等での連携を図り、ホームの運営や各種制度手続きの相談等を行い、助言や指導をもらっている。地域包括支援センターとは空室状況の確認等について情報交換に努め、市やグループホーム協議会主催のリモート研修会にも参加して、日常的に連携を深められるように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止に関する指針を作成。全職員に研修を通して、身体拘束は入居者を傷つける行為であることを教育し、防止に徹底して取り組んでいる。玄関の施錠は、夜間の防犯のためのみで行っている。	身体拘束廃止委員会は管理者及び職員が出席して、3か月毎に職員会議に併せて開催し、欠席した職員は議事録で情報を共有している。また、権利擁護を含めた研修を年2回、法人の認知症対応事業所の合同研修会を年4回実施している。不適切な言葉遣いについてはその場で注意し、自分が言われた場合にはどのように感じるか、という視点で検討して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・全職員に研修を通して、虐待を見逃さない、不適切な行為があった時はお互いに声をかけ合える関係性を築けるように教育をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全職員に研修を通じて教育を行っている。理解が不十分な職員もおり、今後も定期的に教育を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・直接お会い出来るときはご理解、納得できるようにお話させてもらっている。直接お会いできない場合は、説明の注釈を添えて読んでもらっている。いずれの場合も、いつでもご質問を受け付ける旨お伝えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見、ご要望があれば、いつでも受け付けることをご説明している。ご意見・ご要望がきかれた際は、運営に活かし改善に努めている。外部者へは、運営推進会議で必要に応じて報告している。	利用者の希望をできるだけ叶えたいという気持ちで、日頃の会話・表情・仕草等から汲み取り、家族とは面会や電話等で意見をもらっている。毎月担当職員が請求書と一緒に「生活状況報告書」に写真を添えて家族に送付しており、家族の理解を得ると共に感想や意見等を運営に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日常的に話ができる雰囲気を作っている。また、月1回の職員会議の場でも機会を設けており、運営に活かす様にしている	管理者は職員との円滑なコミュニケーションに努めており、様子を見ながら声をかけて相談を受けたり、「個人目標シート」確認のための面談を実施している。有給や希望休の取得、研修会への参加等、勤務シフトに配慮して働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・令和3年度、令和4年度と人手不足が著しく、良い職場環境を提供できたとは言えない。令和5年4月の時点で職員数が足りるので、改善して行きたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・法人内研修、施設内勉強会を設けており、働きながら学べる機会を作っている。人員不足で法人外の研修に職員を参加させられなかったが、令和5年度は学びの機会を増やしたいと考えている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・法人外研修、グループホーム協議会等リモート参加が増えており、交流が出来ていないのが現状。いかにして、ネットワークを作っていくかが課題。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人の思いを汲み取れるように努めている。ご本人のことを知ることが出来るように、話してもらえ関係性をつくるように努めている。ご本人が上手く伝えられない方なら、ご家族にお話を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の思いを汲み取れるように努めている。話してもらえ関係性をつくるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居に至った必要としている支援を第一に、落ち着いて生活できるように対応している。必要に応じて、行政、その他のサービスについてご説明、ご案内をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人が今まで培ってきた能力を生かして暮らせるように、職員とお互いに助け合える関係性を築くようにしている。人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに接するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族とご本人が交流できるように連絡を取り持ったり、会える場を設けたりしている。ケアの進め方を相談させてもらっている。また、受診付き添い等協力をお願いしている。各家族のあり方を尊重している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・新型コロナウイルスの為、外出の機会は減っているが、馴染みの場所やお墓参りにドライブで出かける機会がある。外部の方とは会うのは控えていただいている。	利用者の馴染みの関係について、入居時や日常の会話、家族からの情報等により把握している。電話・手紙の取り次ぎ、年賀状の代筆、2か月毎の訪問美容、家族や友人・知人の訪問、墓参り、ドライブなど、利用者を取り巻くこれまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・共同生活の場であるので、良好な関係を保てるように職員が間に入るようにしている。レクリエーションやお茶の場などで、希望する入居者方が集まれる場をつくっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去後も、依頼があれば関係機関との調整や相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご本人の生活歴を把握した上で、日常生活で関わる中で希望や意向を引き出すように関わっている。	利用者の思いや希望は、日頃の会話・表情・仕草等で把握し、思いをうまく伝えられない場合には、家族からの情報や職員が自由に記入できる「申し送りノート」等を通して、本人の思いに寄り添うことができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居開始前に聴取した情報を、全職員で共有し把握するように努めている。ご本人から昔のことを聞いたり努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日常生活の中で、その方を知るように観察し、記録等で全職員に伝えるようにしている。他職員と連携し相談しながら把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、職員と意見を交わして現状に即して作成している。ただ、ご家族とはなかなかお会いできない事もあり、後で確認していただいて意見をいただく形になっている。今後は事前に意見をいただき反映させるようにする。	利用者と家族の思いを大事にして、月2回の訪問診療時の医師・週1回の訪問看護・薬剤師等の意見、生活状況、心身の状態、認定調査結果等を基に、毎月の職員会議でモニタリングを実施し、利用者主体の介護計画を作成している。新規入居の場合は6ヶ月で見直し再作成するが、心身の状態変化がなければ年1回更新して作成している。入退院等の状態変化時には随時計画を見直し、現状に即した計画となるように取り組んでいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・記録の仕方に、職員間で能力差が出ている。今後の課題である。情報の共有は出来るように、申し送り等で伝えて実践につなげるようにしている。記録により、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人、家族からのニーズがあれば、可能な限りサービス提供が出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・施設に入居となると、暮らしていた場所から離れることになり、今までの地域資源を活かせるなくなっている。協力し合える地域資源の発掘が、今後の課題。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。必要に応じて、かかりつけ医より専門医への紹介が行われる。	本人及び家族が希望する医療機関の受診の支援ができるが、利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療や週1回の訪問看護の利用があり、眼科等の専門診療科には家族が同行して結果は生活記録表に記入し、申し送りで情報共有を図っている。夜間はオンコール体制により訪問看護を通して医師の指示を受けることができ、利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回、訪問看護師が施設に来るので、報告、相談を行っている。またそれ以外でも、相談したいことがあれば、24時間体制で電話連絡。報告し指示をもらって対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・提携病院である有馬病院とは日頃から情報交換をしている。他病院の場合は、最初に情報提供を行なっている。経過は都度尋ねている。いずれの場合も、まめに連絡をとって、早期退院につながるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・職員教育や医療関係のサポート体制が整ってなく終末ケアは行っていないこと、重度化し医療面でのサポートが必要になった時は、施設での対応が難しくなることは入居時に説明している。家族との話し合いは、実際には必要となつてからのものになっている。	「医療連携体制及び重度化対応の指針について」を入居時に説明し、同意を得ている。ホームでの看取りは行っておらず、医療処置が必要な状態になった場合、入院を選択されることが多い。重度化した時点で家族と関係者間で話し合い、ホームで可能な限り支援・対応ができるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・研修を通じて、教育を行っている。とっさの時に動けるかどうかは経験によるところが大きいので、実践から学べるように努めていく。資料等を定期的に見直している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・研修、訓練を行い教育は行っているが、全職員が避難方法を身に付けているとは言えない。勉強、訓練不足である。また、地域との協力体制が足りないので、これから構築していく。</p>	<p>消防署の立ち会いの下に、日中及び夜間想定防災訓練を年2回実施しており、法人ではBCPを作成中である。地域住民の訓練への参加・協力は行われていないが、自動通報装置には職員と共に隣人も登録されている。消火器の取り扱いや避難経路の確認等を実施しており、近くに居住している職員がすぐにかかけられる体制も整備されている。備蓄は水・米・缶詰等の食品を用意し、カセットコンロ・懐中電灯・ランタン等も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・接遇の研修、月々の目標設定等、教育の機会を設けている。だが対応が未熟な職員もいる。接し方や言葉遣いが、相手を尊重できているかふりかえる力をつけるように努める必要あり。	個人情報の利用目的については、本人・家族に対して利用契約時に説明を行っている。接遇・ケア係の職員が月初めに目標を立て、職員会議で振り返りや反省点を出し合い、ケアの実践に繋げている。接遇やプライバシーに関する研修会は法人で年1回開催され、全職員が受講して、利用者の人格や感性を大切にしたい支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・職員が私の思いを聞いてくれると思ってもらえる関係性を築き、発言しやすい雰囲気づくりに努めている。意思疎通の難しい方ほど、気をつけて働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入居者優先の生活をめざしてはいるが、施設側のタイムスケジュール優先になっていることもある。意識を変えるように、会議等で共通認識をつくるように努めていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	・好みのものが身に付けられるように、相談しながら決めている。意思表示できない方もこれまでの生活歴から推し量って、身に付けてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事準備や片付けを、その方の力を生かして一緒に行っている。誕生日には好きな物を、行事食などは希望を聞きながら準備している。敷地内の畑で作った野菜を提供する時もある。	食事・健康係の職員が献立表を作成し、3食をホームで調理している。食材はコープ宅配を利用し、菜園で収穫した野菜も活用して、利用者は下ごしらえ・台拭き・下膳等を一緒に行っている。行事食・リクエスト・手作りおやつ・テイクアウト等も取り入れて、職員も一緒に楽しく食事ができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量や水分量は、それぞれに合わせた量を提供している。水分、食事量は記録に残し、変化がないか観察して、健康を保てるよう支援している。食事形態も個々に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ご自分で出来る方はうながし、出来ない方は付き添って手伝っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排尿・排便チェックを行い、排泄パターンを掴むようにしている。羞恥心を傷つけない関わりを心掛けている。	利用者の半数以上はトイレに自分で行くことができ、夜間のみポータブルトイレを利用する方もあるが、誘導にはさりげない声掛けに努め、日中はなるべくトイレでの排泄を支援している。ほぼ全員が便秘薬を服用しており、朝は牛乳を飲み、ヨーグルトや繊維の多い食物を摂るように配慮し、訪問看護とも連携を図りながら改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便チェックを行い、形状や量、回数を確認。便秘の場合は、通じの良くなる食べ物をすすめたり、下剤の調整等を行っている。運動への働きかけは、本人意欲によるので難しいが、すすめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	・施設内での対応であり、曜日と時間帯は決めさせてもらっている。早い時間帯が良い方は最初に声をかける等配慮は行っている。週に3回の入浴で、職員は一対一での対応。	週3回、午後からの入浴を基本としているが、体調や希望に沿って柔軟に対応している。入浴剤は使用せず、シャンプー等は共用で、ゆず湯・菖蒲湯等で季節を感じられるように工夫している。入居後間もない場合は、馴染みの関係ができてから異性介助を行うなど、本人の気持ちを大事にした支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入居者の気持ちを大切に、休みたいときに安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員が処方箋を見れるようにしている。また変更があるときは、申し送りで伝えている。変更後は、状態変化に気をつけている。誤薬のないように、確認し合ってからすすめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日常生活の中で能力を生かして役割を持ってもらえるように支援している。それぞれの楽しみ、好みを尊重して生活を送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・新型コロナウイルス蔓延後、外出制限をかけさせてもらっている。家族との外出を遠慮いただいているので、職員と一緒に外の方と接触しないようにして外出している。その日の希望での外出というのは、職員数が限られている中では正直難しい。	近隣の散歩・初詣・全員での花見・ドライブなど、コロナ禍においても機会を見つけて外出できるように支援している。家族との外出は専門診療科の受診のみとして自粛してもらっている。外出が減ったことでレクリエーションの充実を図り、ゲーム・脳トレ・ユーチューブによる昔の番組鑑賞など、気分転換してリフレッシュできるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・少額の現金を本人希望で持ってもらうこともあるが、認知症の症状があるので管理が難しいのが事実。職員と一緒に買い物外出が出来る時が来たら、使っていたきたいと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	・手紙を書くことは能力的に難しいが、一緒に年賀状は送っている。ご家族から届いた手紙は、自分で読めない方は一緒に読んでいる。電話はやりとりができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間が、落ち着ける場所、季節感が感じられる（生花を飾る、季節の物を飾り付ける等）場所であるようにしている。室温・湿度、光の具合、音等が快適であるよう務めている。	明るいホールには開放感があり、時計・カレンダー・職員が持参した生花等が飾られ、廊下には行事や外出時の利用者の写真が掲示されている。アイランドキッチンを囲んで職員と利用者が一緒に調理の準備をしたり、家庭的な雰囲気が感じられる。空気清浄機も設置され、窓は食後に大きく開けたり常時少しずつ開けるなど、換気に十分配慮して空調管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・狭いつくりで難しい面があるが、窓際にイスを置き一人で外をながめられるようにしたり、ホールでは状況に応じて配置換えをしたりし、思い思いで過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時、その後も本人がなじんだものを持ってきてもらい、部屋を整えている。ご家族の写真等を飾らせてもらい、落ち着ける空間であるようにしている。	居室にはエアコン・タンス・棚・電動ベッドが備えられ、寝具はほとんどリースとなっている。利用者はテレビ・写真・ぬいぐるみ・茶碗・箸など、使い慣れた物を自由に持ち込み、雑誌や新聞を読む方もあり、家庭同様に憩える暮らしとなるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内部はバリアフリーであり、移動時に障害物がないように職員側で気をつけている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない